

(仮称) 白石越河風力発電事業 環境影響評価準備書に対する意見書

令和 3年 8月 9日 提出

項目	記入欄
氏名	①日本野鳥の会宮城県支部 支部長 竹丸 勝朗 ②公益財団法人日本野鳥の会 理事長 遠藤 孝一 (公印省略)
住所	①〒982-0811 宮城県仙台市太白区ひより台 20-7 ②〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
環境影響評価準備書についての環境の保全の見地からの意見	<p>この度、貴社が作成された(仮称)白石越河風力発電事業 環境影響評価準備書について、次のとおり意見を提出します。</p> <ol style="list-style-type: none">クマタカの年間予測衝突数について、風力発電機 T2 において高い数値が示されている。しかし、貴社は、風力発電機付近には迂回可能な空間が確保されており、ブレードへの接触の可能性は低減されていると予測している。風力発電機 T2 付近で数値が高いのは、この場所にクマタカにとって好適な生息環境があるためと考えられる。クマタカが風力発電機を迂回して飛行するかどうかについては科学的な証拠がある訳ではなく、貴社の「迂回可能な空間が確保されており、ブレードへの接触の可能性は低減されている」という評価は不適切であると言わざるを得ない。クマタカのバードストライクを回避するためには、設置位置の変更を検討すべきである。貴社は、クマタカの衝突回数に関する既存の知見がほとんどないため予測には不確実性が伴うとしており、バードストライクの影響を確認するために事後調査を行い、状況に応じた環境保全処置を講じるとしている。そこで、事後調査は死骸調査に加え、クマタカに限らず事前の影響評価と同様に鳥類相や空間飛行に関する調査を対象事業実施区域内とその周辺で行っていただきたい。事後調査における死骸探索調査において、死骸はそれを持ち去る動物がいること、調査地が樹林地となった場合、死骸探索調査には困難性が伴うことなどから、バードストライクの発生の有無等の評価が過少となりやすい。死骸の持去り率や見落とし率、発見率等を用いた適切な死骸調査方法を実施していただきたい。 また、事後調査は安全性の確保から積雪期を除くとしているが、事業地は尾根筋にあり、降雪があっても雪が融けるのは早く、積雪量は多くない。安全性の確保は重要であるが、積雪期を除くことはせず、積雪があった際には調査を延期するなどし、年間を通した事後調査を実施していただきたい。 <p style="text-align: right;">以上</p>